

筆のさんぽ道



木枯らしが山々の
木々をゆさぶつて
渡り、いつの間に
か今年もわずかな
日を余すばかりと
なつて来た。

毎年の事であるが
此の時期になると
若い人達の中には、冬の間都会へ
働きに出られる人が多くある様で
ある。都会に住んで、春帰つて来
る時、精神的に何を持ち帰つて来る
事が出来るだろうか？ある人は
は心に成長の後がうかがわれよう
し、又かえつて精神的に後退した
と思われる人も中にはあるかも知
れぬ。

たびたびある。しかし中にはこん

「私は農業がいいだとは思わない
農村においても将来色々な面で改
め云われる。

善に努力して行けばもつともつと
生活程度は向上すると思う。現在

歩一步若い人達が先頭に立つて少
われた。

「都市の生活よりも私達の村の生
活の方が安定性がある。私は都市

に嫁ぐ気は少しもない。かと云つ
て現在の生活に満足はないが不

な考え方で充実した生活を送つて居

る様に努力しようと思つている」

福になられる事を信じ、人を頼る
のでなく自分達の手で幸せをつか
れる様だつた。

ただ表面的な一面肉体的に樂な
様な都會生活に憧れる娘さん達の

中にはいるが、この娘さんはまだ十八歳だ。

かなり具体的な意見を持つて居ら
れた。

改めたいものの一つである」と、
いふ。

「いふ君、和泉のまことに

君、和泉のまことに

君、和泉のまことに